

作成番号:0267

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-267

内容：閉塞性睡眠時無呼吸症候群は自動車事故と関連があるのか？

出典：Risk of Motor Vehicle Accidents in Obstructive Sleep Apnea: Comparative Analysis of CPAP Versus Surgery.

Otolaryngology--head and neck surgery : official journal of American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery. 2025 Jan 21; doi: 10.1002/ohn.1131.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39838853/>

世界保健機関（WHO）によると、2010年以降、交通事故による死亡は5%減少しているとはいえ、2021年には年間119万人を数える。閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSA）による睡眠障害は、高血圧、心臓病、糖尿病など多くの病気に関連しているが、自動車事故との関連があるかもしれない。OSAは睡眠中に呼吸が止まり、熟睡が妨げられる病気で、その原因は睡眠中に喉の筋肉が弛緩し、気道が閉塞されることにある。現在、治療法として一般的には持続陽圧呼吸療法（CPAP）で、マスクから空気を送り込むことによって、気道を確保し無呼吸が発生しないようにする。また、手術療法もある。米トーマス・ジェファソン大学シドニー・キンメル医科大学の研究者らは、OSAを治療していない人は自動車事故に巻き込まれる可能性が高いか否かを研究し、その結果を「Otolaryngology-Head and Neck Surgery」1月21日号に報告した。

CPAP療法を受けた患者（702,189人）、手術を受けた患者（11,578人）を含む2,834,163人のOSAの患者データが後ろ向きに解析された。患者データは、世界的な研究ネットワークである「TriNetX」より抽出し、年齢、性別、BMIなどの傾向スコアをマッチングさせた。自動車事故の発生率を解析した結果、手術患者群（3.403%）で、CPAP患者群（6.072%）、無治療患者群（4.662%）よりも事故の発生率が低かった。次にCPAP患者群に対する手術患者群の自動車事故発生率のオッズ比（OR）を解析した結果、手術患者群で45.5%（OR 0.545 [95%信頼区間 0.480～0.618]、 $P<0.0001$ ）の減少が認められ、手術患者群に対する無治療患者群の自動車事故発生率のオッズ比は21.4%（同 1.214 [1.060～1.391]、 $P=0.0051$ ）増加していた。これは、無治療の患者と比べた場合、手術を受けた患者で事故発生率が低下し、CPAP療法よりも手術を受けた患者で、事故発生率が低かったことを示唆している。さ

らに、自動車事故を経験した OSA 患者は経験していない患者と比較し、事故発生後に高血圧、糖尿病、心不全などを併発する確率が有意に高くなった（いずれも $P < 0.0001$ ）。

OSA を治療していない人は、自動車事故に巻き込まれる可能性が高く、治療としては手術がより有効であることが明らかになった。

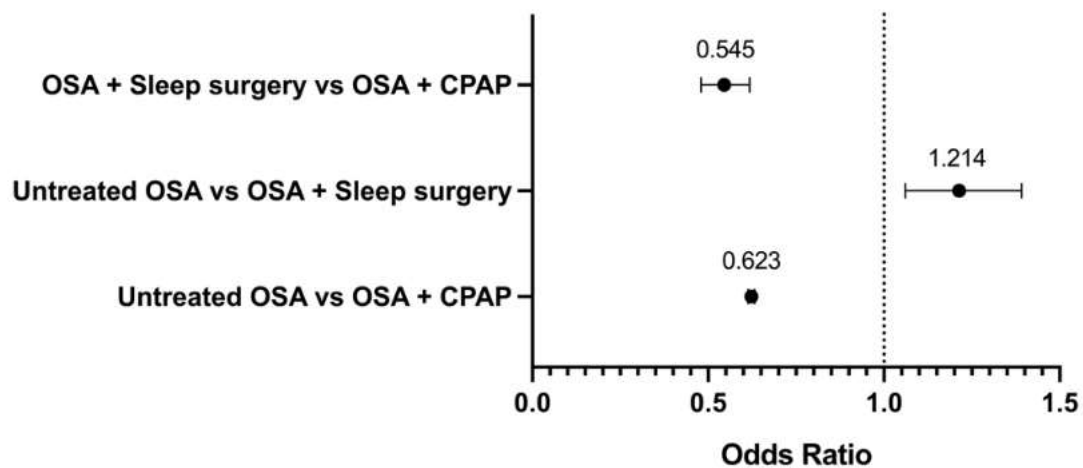


Figure 1. Comparison of MVA risk between cohorts. Post-PSM odds ratios for each comparison ($P < .0001$). CPAP, continuous positive airway pressure; MVA, motor vehicle accident; OSA, obstructive sleep apnea; PSM, propensity score matching